

う ぬ ぼ れ ね ず み

改 原
色 作

藤 加
原 藤
玄 博
洋

で
て
く
る
も
の

チュウ太 (ネズミ)

おばあさん (ネズミ)

カタツムリ

カブトムシ

イヌ

ゾウ

鏡 (ネズミの神様)

司会

司会助手

ス
タ
ッ
フ

原作 加藤 博

改色 藤原 玄洋

演出

演出助手

人形美術

舞台美術

音楽

音響効果

舞台監督

制作

(c) FIJIWARA GenYo 2024

オープニング

——司会、下手より、緑のパネル前に登場。

司会

こんにちは、みなさん。これからご覧いただくのは、「うぬぼれねずみ」という人形劇です。では、はじまり、はじまり——。

(拍手)

——司会、下手に退場。

音楽。

M
1
オープニング

第1コマ

チュウ太の家

——パネル開いて回転、オレンジ面に。上手パネルは、舞台奥。下手パネルはケコミのソデ。

舞台奥のパネルには、カーテンの閉まった小窓(鏡が隠されている)。

チュウ太、奥のパネル下手より登場。

ケコミ前に歩み寄り、ゆっくり周りを見まわしてから、鏡を見る。

チュウ太

えっへん。カーガミよー、カガミ。お前に聞きたいことがある。よく聞け。(間) この世界で、いちばーん強いのは誰だー。

SE
シンバル

——シンバルで、効果音。鏡のカーテン、ゆっくり開く。

鏡には、ネズミの神様が映っている。口はパクパク動く。

鏡

(声) ウオッホン、それは、ネズミのチュウ太様でございますー。

チュウ太

(観客に) やっぱり、ボクだよねえーっ。それでは、もうひとつ聞く。この世界で、いちばーん頭のいいのは誰だー。

SE
シンバル

——シンバルで、効果音。

鏡

(声) それはもちろん、ネズミのチュウ太様でございますー。

チュウ太

よしよし。それでは、この世界で、いちばーんエッライのは誰だー。

SE
シンバル

——シンバルで、効果音。

鏡

(声) もちろん、ネズミのチュウ太様でございますー。

チュウ太

クッククッククッー、お前は、正直なヤツだ。お前ほど正直

なヤツはいない。ご苦労、下がってよいぞー。

——カーテン閉まる。

チュウ太

（観客に）みんなあ、聞いたあ？ 鏡は正直だよねえ。さつす

がー、うちの宝物はすごい。みんなもほしいでしょう？

（踊るよ

うに）♪世界で一番強いのは、チュウ太様。♪世界で頭のいいの

は、チュウ太様。♪世界で一番エライのは、チュウ太様。（観客に）

こんな正直な鏡、みんなの家にもあるといいよねえ。

——チュウ太のおばあさん、奥のパネル下手側から登場。

おばあさん

チュウ太、何をそんなに騒いでるの？

チュウ太

だって、ウチの鏡ってすごいんだもの。

おばあさん

鏡って、これかい？

チュウ太

この鏡は、正直者なんだもの。ボクのこと、世界で一番強い

って。それに、頭がよくて、一番エライっていうんだよ。

おばあさん

何いっているんだよ、この子は？

チュウ太

（観客に）みんなも聞いてたよね。この鏡は、すごいよ。ウチ

の宝物だよね。

おばあさん　こんな鏡のいつてることなんてアテにならないよ。ウチの

じいさんが昔、がらくた市で買ってきたしろもんなんだからね。

チュウ太　そんなことないよ。ほんとに、正直な鏡だあー。

おばあさん　馬鹿なこといつてるんじゃないよ。

チュウ太　じゃ、おばあさんにも聞かせてあげる。

——チュウ太、鏡に向かって。

チュウ太　えっへん。カーガミよー、カガミ。おまえに聞きたいことが

あーる。（間）この世界で、いちばーん強いのは誰だー。

——シンバルで、効果音。鏡のカーテン、ゆっくり開く。

鏡　（声）ウオッホン、それは、ネズミのチュウ太様でございますー。

チュウ太　それじゃあ、この世界で、いちばーん頭のいいのは、♪だあ

ーれだつ。

——シンバルで、効果音。

鏡　（声）それはもちろん、ネズミのチュウ太様でございますー。

チュウ太　いいぞ、その調子。それでは、この世界で、♪いちばーんエ

ッラーイのはだあーれだつ。

SE
シンバル

SE
シンバル

SE
シンバル

——シンバルで、効果音。

鏡

(声) もちろん、ネズミのチュウ太様でございますー。

——カーテン、閉まる。

チュウ太

クッククッククツー、お前は、ほんとに、正直なヤツだ。(振り返って) おばあさん聞いただろお。

おばあさん

いっただろお。こんな鏡はアテにならないって……。やれやれ、ほんとに、この子つたら……。

チュウ太

正直者の鏡が、いつているんだよお。

おばあさん

お前は、知らないかもしれないけど、この世の中はとつても広いんだよ。

チュウ太

そんなこと知ってるよお。

おばあさん

世の中には、お前より強くて、かしこいものは、いくらもいるんだよ。

チュウ太

そんなものはないってーえ、鏡がいつてるじゃないか。ボクより強くて、かしこいつてのつて、誰がいるんだよお。

おばあさん

そうだねえ……。お前は、ゾウを知ってるかい？

チュウ太　ゾウ？　そんなもの知らないよお。

おばあさん　ほら、知らないものがあるじゃないか？

チュウ太　だけど、そのゾウがどうしたんだよお。

おばあさん　ゾウはね、お前より、何倍も強くて、かしこいんだよ。

チュウ太　そんなことないって。

おばあさん　それに、お前の何百倍も大きな体をしているんだ。

チュウ太　体が大きくなったって、ボクの方が強いに決まってるもん。

おばあさん　ぞうは、キバがあつて、お前なんぞ一突きだよ。おまけに

長い鼻をもっているから、グルグル巻にされちまうさ。

チュウ太　そんなことないよ。ボクは強いんだ。そんなにいうんなら、

ぼくがそいつをやっつけてやる。そして、ボコボコに踏みつつぶしてやる。

おばあさん　およしなさい。ケガをするから……。

チュウ太　おばあさん、これからボクは、そのゾウってのを見つけて、

やっつけてみせるよ。じゃあ、これから旅支度だあ。

——チュウ太、奥のパネル上手側に退場。

おばあさん　やれやれ、ほんとに大丈夫かい。ケガでもしないといいん

だけど……。

——奥のパネル下手側に退場。

入れ替わりに、チュウ太がリュックをしょって、奥のパネル上手側から登場。

チュウ太 よし、準備は万端。ゾウをやっつけてやるー。

M
3
ブリッジ

——下手ソデに退場。一呼吸置いて音楽。

第2コマ 野原への道

——パネル、緑に回転して閉まる。（ケコミ下手にアジサイを掛ける。下手パネルに

木をセット）

チュウ太、上手より、パネル前に登場。

チュウ太 （BGMに合わせて）ランララ、ランラン。いい気持ちだあ。

ずいぶん遠くに来てしまったけど、ゾウはどこにいるんだろう。

ようし、頑張っていくかあ。

——チュウ太、下手に退場。

音楽。

M
4
カタツムリのTM

第3コマ

カタツムリ

—— パネル、開く。緑パネルのまま、ケコミソデに。

カタツムリ、下手より登場。ゆっくり上手に移動し、アジサイに。

チュウ太

(声) やーい、ゾウはどこにいるー！

—— チュウ太、上手より登場。

チュウ太

(カタツムリを見つけ、じっと見る) うーん、あれがゾウか。ずいぶん小さなヤツだなあ。おばあさんは、ボクの何倍もあるといっていたのに……。でも、頭の上に、キバがあるぞ。よし、ゾウに違いない。

—— カタツムリ、アジサイの花の上。

チュウ太

おい、お前はゾウなのか？

—— チュウ太、近づき。

チュウ太

やい、ゾウ。返事をしろ！

カタツムリ

ワシのことかい？

チュウ太　　そうだ、お前だ。

カタツムリ　　ゾウって？　ワシのことかい？

チュウ太　　そうだ、お前しかいないだろう——ゾウ。

カタツムリ　　おやおや、ゾウって……？　ワシは、カタツムリさ。

チュウ太　　お前の頭の上にあるのは、キバじゃないのか。

カタツムリ　　キバって？　オーホッホッホッ。おやおや、これはワシの

触覚じゃ。ワシは、目が悪くてなあ、これで触って確かめるんじゃない。まっ、目の代わりじやのう。オーホッホッホッ。

チュウ太　　なんだ、ゾウじゃないのかー？

カタツムリ　　ゾウだったら、なんじゃ？

チュウ太　　お前がゾウだったら、踏みつぶしてやる。

カタツムリ　　踏みつぶす？　オーホッホッホッ。

チュウ太　　やい、笑うな。

カタツムリ　　オーホッホッホッ。お前、ゾウを知らんのか？

チュウ太　　そんなもん、知ってるわい。ゾウは、キバがあつて、鼻が長くて、大きなヤツだ！

カタツムリ　　わかつとるんじゃないやったら、ワシは、ゾウではない。じゃ、

またな。オーホッホッホッ。

——カタツムリ、ゆっくり歩み続け、上手に退場。

チュウ太 なんだ、ゾウじゃないのか。人騒がせなヤツだ。よし、もう

少し先に行ってみよう。

——チュウ太、下手に退場。

パネル回転して、オレンジで閉まる。

音楽。

第4コマ カブトムシ

——パネル、開く。上手パネルは、緑に回転して、ケコミのソデに。下手パネルは、

オレンジのまま(木のセツトが掛けてある)、ケコミ奥中央よりやや下手よりに。

チュウ太、上手より登場。

チュウ太 (ケコミ上手で) よーし、今度こそ見つけてやるぞお。

——カブトムシ、木の陰、下手が側から飛び出して来る。

チュウ太 やっ！ あれは、ゾウか？ 長い鼻を持つてるぞお。(少し、

近づく おーい、ゾウ。こっちへ来い。

——カブトムシ、知らぬげに、下手付近を飛び回る。

チュウ太 聞こえないのかあ。やい、ゾウ。こっちへ来い。チュウ太様が怖いのか？ やい、そのゾウ。(近づく) おーい、ゾウ。こっちへ来い。

——カブトムシ、近づく。

カブトムシ おーや、あたしを呼んだのは、あなたさんですか？ 何か、ご用さんですか？

チュウ太 そうだ、チュウ太様だ。用があるから、呼んだのだ。ゾウ。

カブトムシ ゾウって、あたしのことさんす？

チュウ太 そうだ！ お前のことだ！ ゾウ。

カブトムシ あたしのことを、ゾウだってえ。

チュウ太 そうだ。ゾウ。

カブトムシ あたしは、ゾウなんどではありませんさんす。

チュウ太 だって、お前は長い鼻を持っているじゃないか？

カブトムシ 鼻？ いやさんすーつ。あたしのこれは、鼻なんかじゃな

いざんす。

チュウ太 鼻じゃない？

カブトムシ これは、鼻じゃなくて、角ざんす。

チュウ太 つーのおー？ 角って、なんだ？

カブトムシ 角をしないざんすか？ これは、あたしの力。これでも
つて、じやまするヤツをやっつけてしまいうざんす。こんな風にね。

（チュウ太を、角でつつく）ツンツンツン——ツ。

チュウ太 イタタッタッタ。やめろ！

カブトムシ ツンツンツン——ツンツンツン。

チュウ太 イタタッタッタ、やめないか。

カブトムシ おわかりざんすか？

チュウ太 じゃあ、お前は、ゾウじゃないんだな？

カブトムシ そうざんす。あたしはカブトムシざんすよ。

チュウ太 なんだ、ゾウじゃないのか……。

カブトムシ おわかりになったのなら、さよならざんす。

——カブトムシ、木の陰に飛んでいく。（パネル下手側から退場）

チュウ太 人様をつつくなんて、失礼なヤツだ。踏みつぶしてやれば

よかつた。

—— チュウ太、下手に退場。

パネル回転し緑で閉まる。

音楽。

(木のセットをはずす。下手に家をセット)

第5コマ イヌ

—— パネル、回転してオレンジで開き、ケコミのソデに。下手ソデのパネルには、小さな家のセット。

ケコミ下手から、サッカーボールが転がって来て、ケコミ中央に。

続いて、追いかけるように、イヌ登場。

ボールと遊んでいる。

チュウ太、上手から登場。

チュウ太

あいつは、なんだ？ ゾウは、ボクより大きいといったから、あれがゾウか？ (首をかしげ、イヌの様子を少し見て) おいつ、ゾウ。

—— イヌは、夢中で遊んでいる。

チュウ太 聞こえないのかー？ おい、ゾウ！ 返事ぐらいしろ！

——イス、気づきチュウ太を見る。

チュウ太 おい、ゾウ！ 返事をしろ！

イヌ ゾウって？

チュウ太 お前は、ゾウなんだろう？

イヌ ゾウ？ （ボールを蹴る）違いますわあ。

チュウ太 違う？

イヌ 私は、イヌですよつ。この世の中で一番おエライ方の、お友達。

チュウ太 一番エライ？ この世の中で、一番エライイッの、このチ

ュウ太様だ。

イヌ チュウ太様？ チュウ太様とやらは、何にも知らない方なのねえ。

チュウ太 ばつ、馬鹿にするな！ ぼくは、何でも知っている。ゾウは、

チュウ太様より何倍も大きいといってたぞ。

イヌ オーホッホホー。大きいって——ゾウは、あなたの何百倍も大きいわ。

チュウ太 お前、さつき、「この世の中で一番エライヤツの、お友達」、

とかいってたな。お前こそ、何にも知らないヤツだ！ 一番エライのは、チュウ太様だ。そのエライ、ヤツって誰のことだ？

イヌ 人間様よ。私の飼い主なの。

チュウ太 人間？ 人間が、なんでエライんだあ？ 一番エライのは、このチュウ太様だ！ 魔法の鏡がいつてるんだから！

イヌ オーホッホホー。そうかもね。考えてみれば、チュウ太様の食べている、ご飯や食べ物だって、人間がセッセとチュウ太様のために作っていますものね。まつ、あなたは、勝手に盗んで食べているだけですけどね。

チュウ太 しっ、失礼なヤツだ……。そんなことは、どうでもいい。ゾウが、どこにいるか、知っているのか？

イヌ オーホッホホー。知っていますわ。

チュウ太 どこにいるんだ？ ゾウは？

イヌ 教えてさし上げますわ。この向こうの広い草むらに住んでいますわよ。

チュウ太 この向こうの……草むらにいるんだな。

イヌ そうですわ。でも、ゾウは、あなたの何百倍も大きいから、お

M7
ゾウのTM

気を付けなさってね。

チュウ太 この向こうの草むらだな……。とにかく、ありがとう。

——チュウ太、下手に退場。

イヌ、ボールを蹴って、下手に退場。

パネル緑で閉まる。

音楽。

第6コマ ゾウ

チュウ太

登場したら

——パネル、緑に回転して開き、両ソデに。

ケコミ下手に、岩のセット。岩に体を隠して、ゾウが眠っている。お尻だけが岩のように見える。

チュウ太、上手より登場。音楽FO。

チュウ太 やーい、ゾウ。どこにいるんだー？ ここにいるのは、知っているんだぞー。

——大きないびきが、聞こえる。

× × ×

効果音

× × × ×

効果音

チュウ太

やーい、ゾウ。どこにいるんだー？ ここにいるのは、知っているんだぞー。

—— 大きいびきが、聞こえる。

チュウ太、ゾウのお尻に近づき、つまづく。

チュウ太

オートツトツトツトートツ。いて——つ。じやまな岩だ。

(蹴っ飛ばす)

イテ——ツテツテエー。(岩のようなお尻が、少し動く) 何だ、

何だあー？ 動いたぞう。(蹴っ飛ばす) イテテテエー。この野郎、

この野郎。(何度も蹴る)

イテ——ツ。なつ、何だあー。こいつ、動いたぞう。(蹴っ飛ば

す) イテテテエー。(何度も蹴る)

—— ゾウ、今度は、はじき飛ばすように突き飛ばす。チュウ太、宙に舞う。

チュウ太

イテ——ツ。なつ、なんだー。チュウ様を、ぶったヤツは—

ー。出てこい！

—— ゾウ、ゆっくり起き上がり、全身が現れる。

ゾウ

プオーツ。

チュウ太

おつ、ボクをぶったのは、お前かあ？

ゾウ ああ、私だ。なぜ、わけもなく蹴っ飛ばした。

チュウ太 じやまな岩だと思っただあ。

ゾウ あんたは、誰だあ。

チュウ太 ボクかあ、ボクは、ネズミのチュウ太様だあ。

ゾウ チュウ太様あ？ そのチュウ太様が、何をしてる？

チュウ太 ボクは、ゾウを探してるんだあ。

ゾウ ほお、ゾウか。

チュウ太 そうさ。ボクより大きくて、かしこくて、強いっていうから、探し出して、踏みつぶしてやって、チュウ太様が、一番強くて、かしこいことを、わからさせてやるのさ。

ゾウ ウッ、ワハーハハハハ。お前の探しているゾウとは、この私のことだ。

チュウ太 何っ？ お前がゾウ？

ゾウ そうだとも、私が、お前の探しているゾウだ。踏みつぶしたいなら、踏みつぶしてもいいぞ。

チュウ太 ようし、後悔するなあ。ボクが、世界で一番強くて、一番かしこくて、一番エライ、チュウ太様だということを、わからせて

× × ×

効果音

× × × ×

効果音

やる。

ゾウ ウツ、ワハーハハハ。後悔なんぞしないさ。

チュウ太 覚悟しろおー。(飛び上がる構え)

ゾウ いいとも、覚悟した。

—— チュウ太、ゾウの鼻に飛び乗り、ジャンプするように踏みつける。

チュウ太 そーれつ。エーイ、エーイ。まいったかあ。そーれ、もう一

度。エーイ、エーイ。まいったかあ。

—— ゾウ、お手玉をするように、チュウ太を鼻で巻き付けて、投げ上げる。

チュウ太、落っこちる。

チュウ太 アーイテ—— ツ、テツテエー。負けないぞう。

—— チュウ太、ゾウの鼻に飛び乗り、ジャンプするように踏みつける。

チュウ太 これでもかー、これでもかー。

—— ゾウ、お手玉をするように、鼻でチュウ太を、何度も投げ上げる。

チュウ太、叫びながら落っこちる。

チュウ太 アーイテ—— ツ、ハーハーハー——。

SE
スライド笛

M8
エンディング

——ゾウ、チュウ太を鼻で巻きつけ、自分の背中に、やさしく乗せる。

チュウ太、フラフラになって、背中に倒れ込む。

チュウ太　ハーハーハー。降ろせー、降ろしてくれー。ハーハーハー。

ゾウ　ウツ、ワハーハハハハ。そーら、お家に、お帰り——。ほーれ、

飛んで行けーつ。(鼻で巻きつけ、チュウ太を投げ上げる)

——スライド笛で、飛ぶ音。

チュウ太　ワツ、ア——……。

チュウ太、上手ソデに飛ばされて行く。

音楽。

チュウ太が退場したらすぐに、パネル、オレンジに回転して閉まる。

エンディング

——音楽の中、司会は下手、助手は上手から、パネル前に登場。

司会　みなさん、どうでしたか？ みんなの中には、チュウ太のよう

な人はいないよ……ね。では、これで「うぬぼれねずみ」のお

話は――。

――司会は、助手の手の中に隠した、「お」「わ」「り」の旗をゆっくり引き出し、二人で体の前に広げる。

二人

おつ、わつ、りつ。これで私たちの人形劇はおしまいです。では、みなさん、さようなら。（次の作品があるときは、その紹介）

――司会と助手、上、下に分かれて、退場。

あとがき

この作品は、故・加藤博さんが、札幌の「人形劇団ひよっこ」のために書かれた作品として上演されたものです。短い作品で、子どもとのやりとりをとりいれた、楽しい作品です。

今回、「人形劇団ぐるーぷ・あ」で上演するために、劇団の舞台機構を生かしたものに改色しました。

天井の低い日本の建物事情を考えて、上半身が出づかいになる形式で、110センチの低いケコミを想定しています。また、川尻泰司先生考案のパネル式緞帳使うことで、一幕だったものを、場面転換のあるものにしました。

各場面で登場する動物たちの選び方に、少し無理があるようにも感じましたが、原作を尊重し、性格付けを工夫することで、変更は加えませんでした。

2024年1月

藤原玄洋

パネル式緞帳については、ホームページ「読む人形劇事典」で検索し、「パネル芝居」の項を参照ください。なお、効果音の楽器は、有りもので工夫してください。

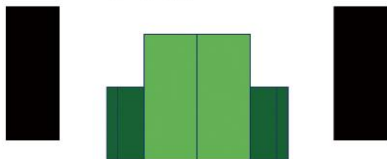
舞台転換図

「うぬぼれねずみ」

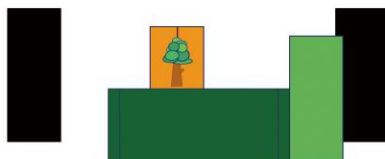
人形劇団ぐるーぷ・あ

藤原玄洋 (C) 2024

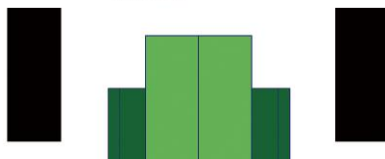
オープニング



4. カブトムシ



イヌへの道



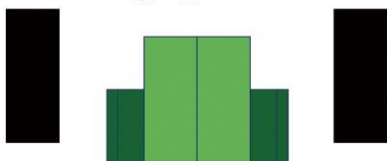
1. チュウ太の家



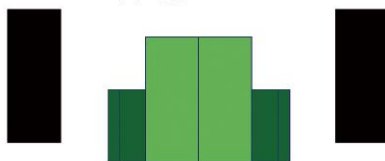
5. イヌ



2. 野原への道



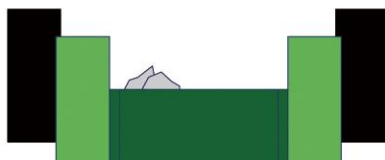
ゾウへの道



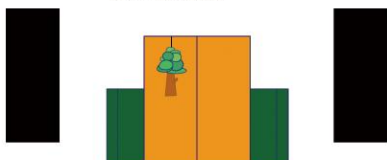
3. カタツムリ



6. ゾウ



カブトムシへの道



エンディング

